

## －青少年健全育成（新規事業検討）「若者自立支援」について－

### I. 「若者自立支援」新規事業化に向けた検討の過程

「広島 20～30 代住民意識調査」にてクローズアップされてきた種々の概念を、個人へと一般化させ事業化に結び付けていくために、マツダ財団では、轡田先生との度重なる協議をはじめとして、市民活動ネットワーク、青少年センターなどからの意見聴取、アンケート調査を実施した府中町、三次市の若者との意見交換や、共に事業を進めることのできる団体の発掘に向けた訪問などを実施した。以下に時系列で記載する。

- ✓ 2015年7月 『広島 20～30 代住民意識調査』報告書刊行
- ✓ 2015年10月13日 探索活動:広島市民活動ネットワーク HEART to HEART 訪問
- ✓ 2015年11月30日 意見交換会:「広島の若者についてディスカスしよう」 in 府中
- ✓ 2016年2月21日 意見交換会:「広島の若者についてディスカスしよう」 in 三次
- ✓ 2016年7月15日 探索活動:広島市青少年センター面談
- ✓ 2016年9月13日 団体発掘:「三次おやこ劇場」(三次市)訪問
- ✓ 2016年9月13日 団体発掘:「ほしはら山の学校」(三次市)
- ✓ 2016年9月21日 団体発掘:「志楽蝶」(府中町)訪問
- ✓ 2016年12月15日 第1回事業準備委員会開催(マツダ本社)
- ✓ 2017年2月6日 第2階事業準備委員会開催(三次2団体の拠点訪問)
- ✓ 2017年2月14日 新事業ネーミング「若者×ツナグバ」にて最終決定
- ✓ 2017年3月24日 「若者×ツナグバ」オープニングイベント(イオンモール府中スターギャラリー)

### 事業化のための意見交換会 記録

#### ・「広島の若者についてディスカスしよう」 in 府中

##### (1) 日時・場所

2015年11月30日(月)

第1部 18:00～19:30 府中南交流センター内 児童センターバンビーズ(安芸郡府中町鹿籠)

第2部 19:45～ 金太郎(安芸郡府中町桃山)

##### (2) 参加者

総勢 10名

内訳) 轡田准教授、当事者(若者自身であったり、市民活動の担い手など)6名、財団員3名

##### (3) 到達目標

事業化を目指したディスカスの第1回目。手さぐりの状態であるため、当事者6名には、「広島 20-30 代住民



意識調査」結果について、まずは幅広くご意見をお聞きし、本質を追求していく。ディスカスで掘みたい内容は以下のような点である。

- ・真の問題は何か、焦点はズレていないか
- ・当事者にはどう受け止められているか
- ・事業化するなら、どのような手段、形態がありそうか

#### (4)内容

当事者の皆さんが遠慮なく発言できるよう部外秘が前提。轡田先生・財団員からの発言のみ要旨として紹介。

##### 轡田先生より、若者調査の概要説明

調査を通じて若い人の問題が多様化していることが分かったので、普通に生活している若者に寄り添い、生き活きと生きられるにはどうしたら良いかを考えている。事実と乖離することなく、実態に合わせた若者事業をしたい、と言われるマツダ財団と同様の軸を持っている。

社会学には、「ポスト青年期」という言葉がある。従来は、学校を卒業して、その後仕事を得て、結婚をして、大人になるのが20代半ばだった。現在、これがどんどん伸びていって、大人になれないまま大人になる人が増えてきている。これは若者問題として2000年代頃から言われるようになった。

若者調査は都会の若者の調査と、手っ取り早く学生調査を行ったものが大半だが、私は府中町と三次市で60人ほど、1~2時間話を聞いてきた。調査を行い、じっくり話を聞いていると、日頃は見えていない色んな人たちが見えてくる。つまり、普段接している人、自分の理解できる人、の周りにサイレントマジョリティがいて、この冷ややかに見ている人たちの存在を注意して見ていかなければならないと考えている。

##### 満足度について(高ければ良いのか、何に満足しているのか)

府中町は、地域の満足度はやたら高い。しかし、生活満足度は三次市と差が無い。行政の満足度調査は、「高ければ良い」というものだが、満足であればそれで良いのかと思う。生活保護受給者や長時間労働、サービス残業の人の話が聞こえてくるのに、「この地域は良い地域です」と言って終わりにして良いのだろうか。互いに話し合う事が必要ではないか。

若者の地域満足度は、イオンモールと、オタクならアニメイト、サブカルならビレッジヴァンガード、遊ぶならラウンドワンがあり、そのアクセスで地域満足度が決まる。満足度のほとんどが地域活動そのものではない。実際府中町のアンケートを見ても、「更なる利便性の強化を」としか帰ってこない。便利さの提供だけが行政のすることなのだろうか。

##### 地域の魅力と地域満足度について

府中町は公民館へ行けば、歴史民俗の素晴らしい資料もあるのに、町民が利便性ばかり評価している。子ども達も遺跡類ではなく、「イオンモールがある」から府中町は良いという。行政も文化継承については、具体的なプランがなく、文化面での魅力発信は進んでいない。

##### 若者のコミュニケーションの実態について

これまでの話の流れは、結局イオンモールに対抗してオリジナルの地域価値を見直しましょうという話にな

るが、私たちはもう 1 つそれを乗り越えたいとも思っている。若い人は、スマホだけでなく、インターネットや友人から大量の情報を得ていて、以前の若者よりも情報処理量は膨大になっている。人間関係希薄化っていうのも、社会的には怪しくて、「実はものすごく繊細になっているだけ」という人もいる。繊細すぎて人と上手く関わらず、大学でも新歓コンパをしないこともあるそう。

#### ところで、ディスカッションのゴールは何だっけ？

今日は、皆から話を聴く、知る、というのがゴール。無理やり何かに纏めようというものではない。轡田先生のレポートの中にある若者たちが「自分が悪いのではないかと思ってしまう」というのはすごく気になっていて、何とかしたい。繊細な今の若い人が素直に、怒りや、悲しみや、他者の痛みを上手く出せるように。若い人に「表現はしたい」という発言があるようだが、「それが実際に出来ない」とか「していない」のだとしたら、何かあるのだろう。

#### もっと多様な生き方のロールモデルを

大学ではキャリア教育を盛んにやっているが、企業に気に入られるためのものが多い。若者の事を考えると、色々な面白い生き方をしているロールモデルを紹介したら良いと思うが、そんなことは教えてくれない。ロールモデルを知る場がもっとあれば、生き方の選択肢も増えるだろう。

### (5) 所感

今回の意見交換会で参加者の態度に通底していたのは、「それは真実か?」「なぜそうなのか?」と相手の発言や考えを根掘り葉掘り聞いてしっかりと向き合う態度であり、正にこれ失くしては本当の「対話」になり得ないものだった。今回の参加者は相対的にその能力が優れていると思うが、注意して見て行くべきサイレントマジョリティの様な存在はどうか。まず「対話」する力を養う事＝情報を疑う力、批判力、抵抗力、怒りや悲しみをうまく表現し、他者の痛みが分かる、そんな学びの場を運営する、という方法もあるのではないか。

### ・「広島若者についてディスカスしよう」 in 三次

#### (1) 日時・場所

2016年2月21日(日)

10:30-14:30 みよしまちづくりセンター 1F 応接室(三次市十日市西)

#### (2) 参加者

総勢 11 名

内訳 轡田准教授、当事者(若者自身であったり、市民活動の担い手など)7名、財団員3名

#### (3) 到達目標

事業化を目指したディスカスの第2回目である。当事者7名には「広島 20-30 代住民意識調査」結果について、まずは幅広くご意見をお聞きし、本質を追求していく。ディスカスで掴みたい内容は以下のような点である。



- ・真の問題は何か、焦点はズレていないか
- ・当事者にはどう受け止められているか
- ・事業化するなら、どのような手段、形態がありそうか

#### (4) 内容

当事者の皆さんが遠慮なく発言できるよう部外秘が前提。轡田先生・財団員からの発言のみ要旨として紹介。

##### 轡田先生より、若者調査の概要説明

地方の若者については、正確に理解されていない、と思うことがある。東京の社会学者が言っている事にはちよつと違うことが含まれている。私が考えていることや実態をきちんと言葉にしたいな、と思っていたので本調査を行った。「地方の若者」は一括りにされがちで、地方の若者=ヤンキーだと思っているような人もいる。そのような中で実は色々な立場の人が居る事をリアルに描きたいと思っている。例えば世間では「地方は仕事が楽だからUターンしていくんだらう」などと聞くけれども、地方の生活は決して楽ではない。

これまでの若者支援というと、引きこもり、貧困、ニート…と、福祉的なケアが必要だという話になる。一方で、地域の祭りを率先している若者もいる。でも、そのどちらでもない大多数の普通の人たちを元気づけるようなことができれば、と考えている。

##### 「三次で働く」ということ

三次には仕事が少なく、また、正規雇用でも給料は全国平均より低い。他地域で働いていた人が三次に帰ってきたら、年収が3分の1程度になったという話はよく聞く。大学卒業後、就職で三次に戻りたくても、専攻していたキャリアを活かせる仕事が少ない。三次には選択肢は少ないが、広島市には十分にある。広島市で働いていても、三次にいる家族には会える距離関係。なので広島市内に行ってしまうことが多い。また、女性の場合は50%以上が医療・福祉関係に従事しており、府中町とは全く環境が異なる。

府中町なら、そこに仕事があるから住む、という「選んで住む」状況があり、満足度が高くなるのだと思う。三次の人は、ずっとそこに住んでるからそこに住んでいる、が居住の理由。

##### 代々続く農業の現実

100年、200年と三次に住み続けて農業を営んでいる家も最近は兼業が多い。農業をする人が減っているの地域内で法人の形にして助け合うこともある。今日はこの人の田んぼ、明日はあの人の田んぼ、のような持ち回り。農業人口が減っても、このような法人すら作れずに各家それぞれがやってきた地域もある。区画整理が出来ていないからと、農地自体で揉め続けている場合もある。三次市でも、十日市のようなスピード感がある場所があれば、10~20Km 山に入ると、昭和か大正かみたいな世界になり、地域内格差が凄く大きい。

##### そんな三次で、若者たちは子どもたちのことを思う ~「川西地区」の例

川西には勢いのある若者もいて彼ら自身の発意により「川西を盛り上げる会」の試みも始まっている。川西には、「ほしはら山のがっこう」が活発に活動している上田地区もあり、「田舎の暮らしが良い」と言って、移住してきた人たちも居る。五右衛門風呂に入ったりも実現可能なのでそういうのが好きな人が地区に集まる。Iターン・Uターンで若者も少し帰って来ている。「川西を盛り上げる会には」まだ大人が4人しかいないが、そのような若者主体の

活動をマツダ財団が少し支援することで、ぐっと大きくなってくれたら嬉しい。

若者たちは将来に不安はあれど、衣食住には特に困っていることはない。ただ、未来を担う子どもたちに何かしてあげたい、と思っている。そこに住んでいる子ども達が「大人に何かしてもらったよね。」と思えたら、その子たちが大人になった時に何かしてくれるかな、という思いがある。三次には大学がないので、外に出ることになるが、その後、戻ってきてくれる人もいる。そういう子どもたちを1人でも多く育てるには、小さい頃から地域とのふれあいを持って「顔がみえる」関係が築けることが必要だろうと考えている。そういう思いが居場所として出来上がりつつあるのだと思う。

### 三次の中でも、温度差は色々

それぞれの地域でも個々には思いを持つ人が居るが、どうしたら良いか分からない、繋がりが無いから動けない、ということもありそう。先ほどの「盛り上げる会」も川西に限定せず、三次市全体で志のある人が集まり、更には財団や外部の人も入って意見交換するだけでも充実するかもしれない。

ただ、意識が高い人に焦点が当たりがちではあるが、その他90%の大多数は意識が中間層。どのように話を持ちかけ、広げていくか、が一番の課題になってくる。自分から働きかける勇気はないけど、きっかけがあれば出るんだけど、という人は結構多い、という気はする。

### 都会からUターンした事情は…

都会で長時間労働することによってお金を得たが、それは果たして豊かな生活なのか？ということに気付いたから、Uターンしたという事例もある。将来を考えた時、都会より収入が下がっても、時間が欲しいから帰ってくる。結婚は、府中町より三次市の方が早い。早く結婚するが、離婚率も高いので、離婚によるUターンもある。結婚した人が三次に戻ってくる、というのは離婚した…というイメージもある。Uターンにも様々な形態はありそうだが、そのようなサイレントマジョリティをこういう議論の場に呼び込む仕掛けを考えてもらえたら面白い。

### 子どもを介する以外の社会との繋がりが…？

子どもが居なかったら社会との繋がりはどうきっかけとして持つのだろうと考えると、やはり趣味が大きい。「趣味縁」というのがあって、趣味を通してコミュニティと繋がり、それを持っていると生活満足度が上がる、と言われている。

### 趣味でも、職場でも、大して社会との繋がりが無い場合も。

他地域にいたら娯楽施設もあるから趣味もできるだろうけど、三次にはない。家族で出かける時も三次には何もないから、ひとまず、広島府中イオンモールにでも行く。広島に行ったら学生時代の友だちもいるようだが、自分から連絡は取らない、という若者も。

会社では、「やらんにやいけん」「覚えんにやいけん」「できるようにならんにやいけん」で精一杯。ちゃんと一人前になったら仕事に楽しみを感じるかもしれない。入社して数年経っても、会社には友達はいない。

### 「地域との繋がりがなんて皆無」という若者も

三次は地元の人52.3%で、地元外の人結構多い。地域との繋がりが全くない地元外の若者もいる。仕事に行き、家に帰って、あとはコンビニくらいしか行かないから情報がない。家や外で何かをしようとすると、パチ

ンコやゲームぐらいしかない。新しい所に入ろうかということもまず考えないことが多い。三次では、土日勤務の職種が多く、典型的なデスクワークするサラリーマンが少ない。何かをしようとしても休みも合わない。

ダラーっとメリハリのない生活。でも、何か自分にはないもの、意見が聞きたいと思っている

仕事に行く前にゲームして、終わってもゲームして、で、寝て、仕事行って、ダラーとメリハリがない状態の若者も、「このままでも良いのかなあ」と思うことがやはりあるらしい。人や地域との繋がりもほとんどないし、どうなりたいたいという自分もないし、でも、どうしよう…。そういう漠然としたものがあるからこの意見交換会に来てくれている。将来の事を明確に考える事はなくても、潜在的に、自分にはないものや、色んな意見が聞いてみたい、と思っているのかもしれない。

## (5) 所感

この会は、メンバーを絞り当事者にありのままを話してもらった結果、「要望」ではなく、気持ちを言う場になった。話を進めているうちに本人自身に少し気付きが出てきた場面も見られた。

また、「どのような若者にアプローチするのか」も見えてきたように思われる。「川西を盛り上げる会」を立ち上げ模索中の方々。一方で、「メリハリのない生活だが、自分にはないもの、意見が聞きたいと思っている」方。一見両極端の若者だが、彼らは共に、我々の目指している事業の主役ではないだろうか。接点の少なそうなこの両者が、同席し、結論を求めずとも考えていることを語り、相手と自らを認識し合う、このような場・経験が貴重なのではないか。

今後、彼らにどのような役割を担ってもらえば価値のある事業として成立するのか、具体的に考えたい。

## II. 若者×ツナグバについて

### 1. 事業目的

青少年の最終ステージとも言うべき「社会人になる直前」「社会に出て間がない若者」一人ひとりが、社会情勢を正しく認識し、多様な考え方を理解したうえで、自分の納得できる生き方を見つけ、潜在能力を高め、選択肢を増やして希望につなげていく。そのために「対話」「表現活動」「居場所づくり」等の活動を「若者×ツナグバ」実行委員会に参画する市民活動団体との連携によって進めていくことを目的とする。当事業初年度は、「NPO 法人 ほしはら山の学校」(三次市)、「NPO 法人 三次おやこ劇場」(三次市)、「府中町地域活動青年団体 志楽蝶」(安芸郡府中町)の3団体と連携を実施する。

### 2. 事業内容

#### (1) 実行委員会の開催(年4回の開催)

- |            |                       |
|------------|-----------------------|
| 第1回(4月)    | 当年度活動内容、事業推進体制の確認     |
| 第2回(6~7月)  | 前年度決算、事業報告、当年度活動経過と課題 |
| 第3回(9~10月) | 当年度活動経過と課題            |
| 第4回(1~2月)  | 次年度事業計画および収支予算立案      |

#### (2) 実施プログラム

##### ① ほしはら山の学校「ワカモノ×コドモ自然学校プロジェクト」

###### a. 目的

- ✓ ワカモノの自然あそびの機会づくり
- ✓ ワカモノのボランティアデビューの機会づくり
- ✓ ワカモノの対話の機会づくり

###### b. 活動内容

・ワカモノが自分たち、そしてコドモを対象とした自然体験企画&実行を通して、仲間づくりと社会貢献、そして新しい自分と出会うプロジェクト。

- 1回目:一泊二日 自然あそびのプロと体験/ワカモノ自然学校を企画しよう
- 2回目:一泊二日 ワカモノ自然学校実施
- 3回目:一泊二日 自然あそびのプロと体験/コドモ自然学校を企画しよう
- 4回目:一日 コドモ自然学校実施(ボランティア活動体験)
- 5回目:一泊二日 これからの自分計画と発表、卒業式

・参加予定人数:10名(高校生~30代)

##### ② 三次おやこ劇場「Folks Tea Booth 自分の手で居場所をつくろう！」

###### a. 目的

- ✓ 10代後半の子どもと若者が自由に生き方を選択できない現状を、家庭・学校/職場以外の居場所をつくることによって解決する。

###### b. 活動内容

- ・学校、職場、自宅以外で若者が、気軽にふらりと、いつでも立ち寄ることができ、本音で語り合える、自由を感じる居場所、手づくりの石窯のあるオープンカフェ「Folks Tea Booth」を若者の企画でつくる。
- ・完成後は、週 1～2 回オープンの Tea Booth の運営と、年 1～2 回のイベント企画実施を若者自身の力で行う。コミュニケーションの快樂と達成感(失敗体験も)を得ることにより自信を深め、若者一人ひとりが、自分にしかできないことを発見することに繋がる。
- ・参加予定人数:のべ 100 人。

### ③ 志楽蝶「青少年の居場所づくり」

#### a.目的

- ✓ 従来より実施しているさまざまな地域支援活動の推進に加え、青少年の新たな居場所をつくることで、他世代交流を活発にし、コミュニケーション能力、リーダーシップ能力を含む個々人のスキル向上を実現し、中高生育成、新たなコミュニティ開拓、ひいては地域発展に繋げていけるよう、府中町に若者の風を吹かせる。

#### b.活動内容

- ・志楽蝶事務所兼活動場所「志楽蝶 BASE」の設立
- ・ヒーローショー「ツバキマン」公演(於児童センターバンビーズ、定員 100 名)
- ・ネットラジオ「志楽蝶ラジオ」(於児童センターバンビーズまたは志楽蝶 BASE)
- ・カフェ運営(於志楽蝶 BASE、定員 10 名、月 2 回)
- ・青少年しゃべり場運営(於児童センターバンビーズまたは志楽蝶 BASE、定員 10 名)
- ・スポーツ大会(於空城山公園、定員 30 名)
- ・地域イベントへの参加、地域イベント等での音響照明担当
- ・志楽蝶ラジオのリスナーの夢をかなえるプロジェクト

## 3. 事業推進体制

「若者×ツナグバ」実行委員会委員名簿

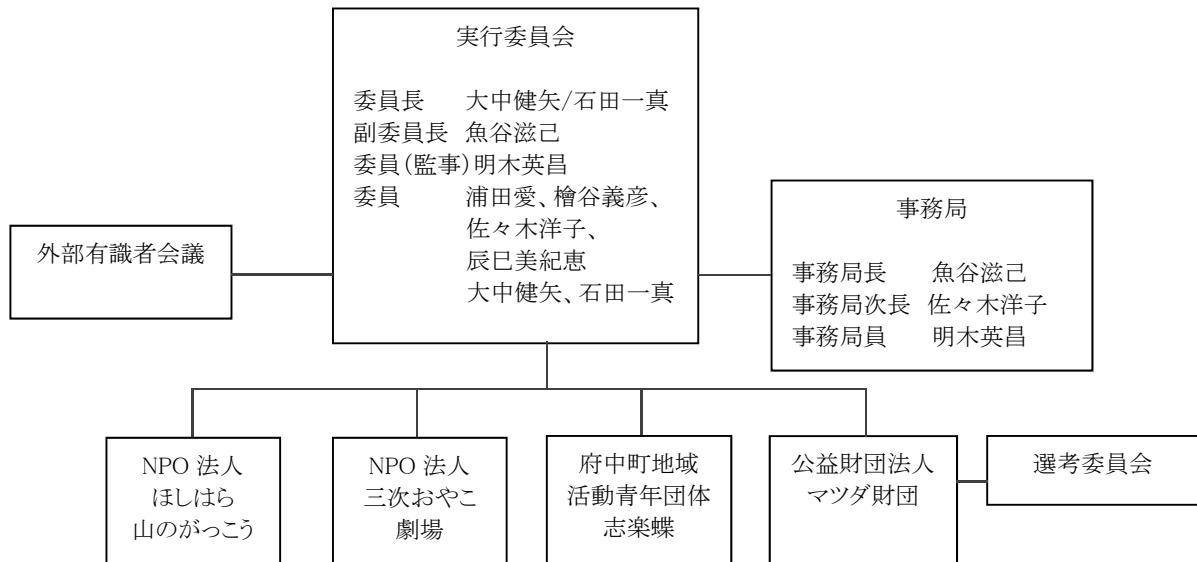
(敬称略・五十音順)

区分	氏名	備考
委員長	大中健矢/ 石田一真	府中町地域活動青年団体 志楽蝶 代表 府中町地域活動青年団体 志楽蝶 代表代行
副委員長	魚谷 滋 己	公益財団法人マツダ財団 常務理事・事務局長
委員 (監事)	明木 英 昌	公益財団法人マツダ財団 事務局長代理
委員	浦田 愛	NPO 法人ほしはら山のがっこう 副理事長・事務局長
委員	檜谷 義 彦	NPO 法人ほしはら山のがっこう 理事長
委員	佐々木洋子	NPO 法人三次おやこ劇場 副理事長
委員	辰巳 美紀恵	NPO 法人三次おやこ劇場 事務局長
委員	大中健矢/ 石田一真	府中町地域活動青年団体 志楽蝶 代表 府中町地域活動青年団体 志楽蝶 代表代行



「若者×ツナグバ」事務局員名簿

区分	氏名	備考
事務局長	魚谷 滋己	公益財団法人マツダ財団 常務理事・事務局長
事務局次長	佐々木洋子	NPO 法人三次おやこ劇場 副理事長
事務局員	明木 英昌	公益財団法人マツダ財団 事務局長代理



4. 連携団体プロフィール

団体名	NPO 法人ほしはら山のがっこう	代表者名	理事長 檜谷 義彦
結成の時期	2012年1月(任意団体は2003年5月)		
結成の目的 活動方針	この法人は、自然豊かで昔からの暮らしが今なお残る「ふるさと」の教育力・癒しの力・居場所としての機能・自然と人の共生力・農的な暮らしの知恵や農村景観などを活かしたさまざまな活動を通して、これからのふるさとづくりと未来を担う人づくりを推進することをもって、持続可能な地域社会づくりに寄与することを目的とする。(定款より)		
活動内容 ・実績	1. 廃校を活用した交流宿泊施設の運営 2. ふるさと自然体験塾(年8~10回)の主催/ 主に親子を対象としたふるさと体験の機会の提供 3. ふるさと自然体験教育・地域交流イベントの企画・指導/ 指導者派遣・他団体との連携及び支援 4. 人勢育成/講演依頼・講習会 5. 地域づくりデザイン支援/地域資源を生かした地域産品起こしや デザイン支援  実績 2003年トムソーヤスクールコンテスト 文部科学大臣奨励賞 2011年内閣府特命担当大臣表彰受賞(子ども・若者育成支援)		
構成メンバー	総人員(2016年12月現在)理事10名、会員62名(成人女性31名、成人男性31名)		

団体名	NPO 法人三次おやこ劇場	代表者名	花本 識吏
結成の時期	1984 年 5 月		
結成の目的 活動方針	1984 年、「子どもたちに夢を！たくましく豊かな創造性を」のスローガンを掲げて県北地域の子どものための文化芸術の拠点として発足。すぐれた舞台芸術と、創造性を育てる自主活動を中心に、子育て支援活動等、多彩な活動を展開し、子どもの心豊かな成長に寄与することを目的としている。		
活動内容 ・実績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 舞台芸術鑑賞活動 子どものためのすぐれた舞台芸術鑑賞機会の提供(年間 3～4 回) 2016 年 3 月 18 日「たっちゃん紙芝居」(マーガレット一家 名古屋) 2016 年 6 月 18 日「ともとのガラクタ音楽会」(TOMO OFFICE 東京) 2016 年 9 月 2 日「紙芝居ミュージカル てじ」(劇団鳥獣戯画 埼玉) 2016 年 12 月 3 日「トムのサーカス・ワークショップ」 (むごん劇カンパニー 横浜)</li> <li>2. 地域公演 三次市内まで遠距離の地域に生の舞台を届ける(年 1 回 6～7 月 4 地域) 2016 年 7 月 8～10 日「ガムラン音楽影絵劇きんぎょがにげた」 影絵劇団くぶくぶ 庄原市、世羅町、頓原市、赤名町</li> <li>3. 創造的自主活動 子どもたちと大人が企画し実施する、体と頭を使って思いっきりあそぶ活動 (年 3～4 回) 2016 年 6 月 5 日しごんぼ音楽会 2016 年 8 月 1 日デイキャンプ(庄原市口和町ほたるみ公園 114 人) 2016 年 8 月 19～20 日キャンプ(島根県桂島 26 人) 2016 年 10 月 9 日プレ忍者修行(三次市廻神町 51 人) 2016 年 10 月 30 日忍者修行(三次市三次町尾関山・忍者屋敷 112 人)</li> <li>4. 子育て支援活動 子育てフリースペース KADOYA(月～土)開所</li> <li>5. 会報発行(3～4 回)</li> </ol> <p>人間はどこからきたのか、何のために生きるのか、自分をみつめ、将来を真剣に考えるようになる青年期。豊かにたくましく人生を生き抜く支えとなる活動をともに考えてゆきたい。</p>		
構成メンバー	総人員(2017 年 1 月現在) 159 名		

団体名	府中町地域活動青年団体 志楽蝶	代表者名	大中 健矢
結成の時期	2011 年 7 月		
結成の目的 活動方針	<p>結成目的</p> <p>府中町を中心に集まった青年団体。自分たちでイベントの企画や運営を行い、社会に貢献できるようなリーダーシップを身につけることが個人の目標。メンバー各々が持つスキルをメンバー内で共有し、個人の能力を広くする事にも尽力している。活動は、下は幼児から上は高齢者まで対象にし、幅広く行っている。</p> <p>活動方針</p> <p>現在の主な活動はヒーローショー、ネットラジオ、地域イベントへの参加、音楽イベントでの音響、照明などを行う。展望として青少年の居場所づくりを行いたいと考えて</p>		

	おり、その前身として志楽蝶事務所兼活動場所「志楽蝶 BASE」を作ることが当面の方針。
活動内容 ・実績	<p>・ヒーローショー「ツバキマン」 志楽蝶オリジナルの府中町のご当地ヒーロー。児童センターバンビーズや府中公民館、海田町のひまわりプラザなどで幼児、小学校向けに講演を行う。意外にも幼児の親世代からの人気が高い。今はシールや 3D プリンタを使ったフィギュア作成などグッズ展開も思案中。</p> <p>・志楽蝶ラジオ メンバーの大中、石田による中高生向けネットラジオ。中高生の疑問や考えなどをネットで投稿してもらい人生の先輩からという目線でお送りするラジオ。府中南公民館で公開収録を行い、動画形式でお送りしたことも。まるごと府中町というブログに乗せていただいたことで中高生にもリスナーが存在。</p> <p>・地域イベントへの参加 つばき祭り、南フェスタへの出店。主にくじ屋などを行う。また南フェスタ、府中音楽フェスティバル、ヒューマンフェスタ、府中ライブでは音響、照明スタッフを担当。</p> <p>・児童センターバンビーズ行事 バンビーズ夏祭り、バン！バン！！フェスタ等の企画に当日お手伝いやツバキマンのヒーローショーなどで参加。夏休みの自由研究の参考にするための企画として小学生を対象にした「夏の受験大作戦」は志楽蝶が企画しバンビーズで行った。 中高生委員会の支援やイベント運営の手伝いをしている。 現在の志楽蝶会議もバンビーズの部屋を借りておこなっている。</p>
構成メンバー	総人員(2016年10月現在)理事 15名